

13. 金撰狂歌集【きんせんきょうかしゅう】(外)



(刊) 中本一卷一冊

寛政八年(1796)九月刊

(江戸) 銭屋金埒【ぜにや・きんらつ】[編]

(江戸) 蕙齋政美【けいさい・まさよし】[画]

江戸 蔦屋重三郎【つたや・じゅうざぶろう】[板]

銭屋金埒撰の絵入狂歌本。「酒好米人【さかづきのこめんど】」の序(計三丁)によると「(前略)ここに銭屋金埒なるあり。(中略)ことし寛政八年みな月ばかりやつかりとともに南門【ミナト】の樓にのぼりて三伏のあつきを避るに(中略)人々をして秋の題を探らしむるに(中略)秋興八十首とせり(後略)」とあり、題箋は「金撰狂歌集 完」と記され「秋部」のみで完結。「初秋」から「晩秋」まで秋のみの題詠。詠者には、兄弟子の北尾政演こと「山東京傳」(十丁表)、や板元の蔦屋重三郎こと「蔦唐丸」(二三丁裏)、そして1(A)『葵氏艶譜』でも句を寄せた「浪速 大江丸」(二二丁裏)の狂歌もみえ 上方と江戸の交流も窺え興味深い。

蕙齋は《盆踊り図》《海面の月に浜図》《鷹狩図》計三図(計六丁)、大和絵風の挿絵を寄せる。このような踊り図は後に秋圃の絵馬類に同想の物が見える。